



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち ～

vol.2

横浜港で進められている新本牧ふ頭の埋立事業。
完成すれば大型コンテナ船に対応した日本最大級の
大水深 18m 岸壁(延長 1,000m)を備えた高規格の国際コ
ンテナターミナルとなる。
この日の工程は、大水深 18m 岸壁の本体構造を成す
鋼板セルの据付作業だ。
千葉県富津で約半年かけて製作された鋼板セルは、直
径 24.5m、高さ 26m、重さ 350t の巨大な円筒。
富津から新本牧まで約 3 時間かけて起重機船で吊曳航
された鋼板セル 1 函を水深 23m の所定の位置に据え付け

る。許容誤差はわずか ± 20cm 以内。
鋼板セルと起重機船の双方に、風、波、潮流などの自
然外力が大きく作用する状況下でのセル据付作業は、極め
て緻密で高度な技術を要する。
2021 年に 1 函目が据え付けられ、2024 年中に 6 函目
が完了する見込み。
現場を指揮するのは小泉博之所長。この道 35 年の
技術者だ。スケールが大きく、形に残る仕事にやりがい
と誇りを感じるという。



撮影 / 文：西村尚己 アフロ(2024 年 10 月 3 ～ 4 日撮影)
工事名：令和 5 年度 横浜港新本牧地区岸壁(～18m) (耐震) 築造工事(その2)
発注者：国土交通省関東地方整備局
受注者：東亜・あおみ・大本特定建設工事共同企業体



<プロフィール>
西村尚己 / Naoki Nishimura
株式会社アフロのフォトグラファー(アフロスポーツ
所属)。1994 年、大阪大学大学院工学研究科修了後、
運輸省(現国土交通省)入省。本省、北海道開発局、中部・
近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港(株)で
インフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして
活動。2016 年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピッ
クをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。